

愛土郷に込めた愛に食



宮城県のアンテナショ
ップ店長・佐々木さん

被災地歩き仕入れ

中央区築地の場外市場にある宮城県のアンテナショップ「緑の駅2番線」では、被災地の中企業から仕入れた水産加工品や土産物などを扱っている。

店長の佐々木ふじ子さん

(46)は震災前、都内のワイススクールで事務の仕事をしていた。しかし、震災で廃墟と化した故郷の南三陸町の姿、「東京で一人、安閑と暮らしていくいいのか」という思いから、転職を決めた。

被災前に収穫してあったワカメ。製造を再開したチーズタルト。扱う品々の中には、佐々木さんが被災地を歩いて見つけてきた商品も数多い。経営者たちはいま、再建に手いっぱい。商業で都内まで足を延ばす余裕など全くないからだ。

どの品にも、復興への思いが詰まっている。お客様から「頑張ってね」と声をかけられるとき、佐々木さんは「頑張ります」と、はつきり答える。もうひとついふ。被災地を代表するつもりで、大きな声で――。